

2009年3月の東北地方の天候

【3月の特徴】

- 上旬・中旬の高温、下旬の低温
- 東北日本海側の寡照

(1) 2009年3月の概況

上旬と中旬は寒気の南下が弱く高温で経過した。19日には顕著な高温となり、仙台や福島など3月としての日最高気温の高い方からの第1位の値を更新したところもあった。下旬は強い寒気が南下し、顕著な低温となった。天気は東北太平洋側では数日の周期で変化したが、東北日本海側では中旬に低気圧が次々に通過した影響や下旬に強い寒気が南下した影響で寡照となった。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方で平年並。月間日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で44%と少なく、東北太平洋側で22%とかなり少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬：東北北部では高気圧におおわれ晴れの日が多くたが、東北南部では南岸低気圧や前線の影響により曇りや雨または雪の日が多くた。また、期間をとおして大陸からの寒気の南下は弱く高温となつた。6日に日本付近を通過した二つ玉低気圧の影響により東北太平洋側では降水量が多くなつた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部で少ない。

中旬：低気圧や気圧の谷が短い周期で通過したため、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多くたが、東北太平洋側では晴れる日もあつた。期間の後半は日本の南海上の高気圧から暖かい南風が入り高温となつた。特に低気圧が日本の北を通過した19日には顕著な高温となり、3月としての日最高気温の高い方からの第1位を更新したところもあった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。

下旬：期間のはじめは低気圧が日本海を発達しながら通過し、南から暖かい空気が入り高温となつたが、その後は強い寒気が南下したため、東北日本海側を中心に顕著な低温となつた。また、冬型の気圧配置となる日が多く、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多くたが、低気圧や気圧の谷の影響を受けることが少なかつた東北太平洋側では、晴れの日が多かつた。

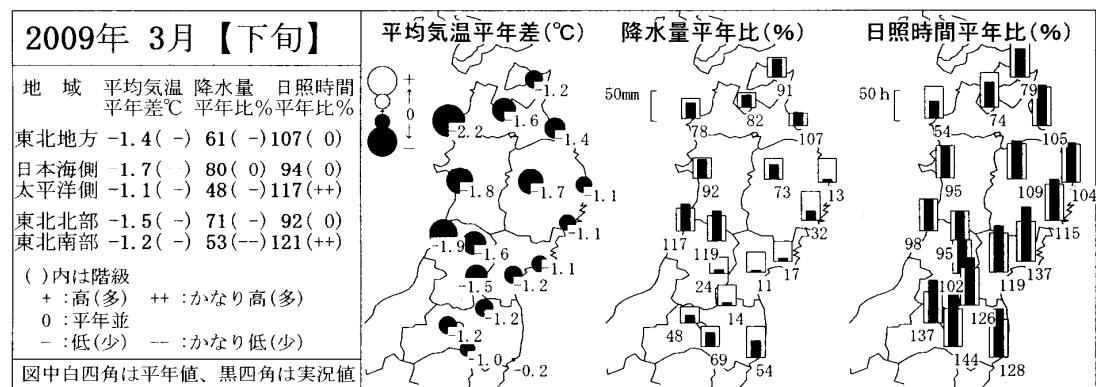
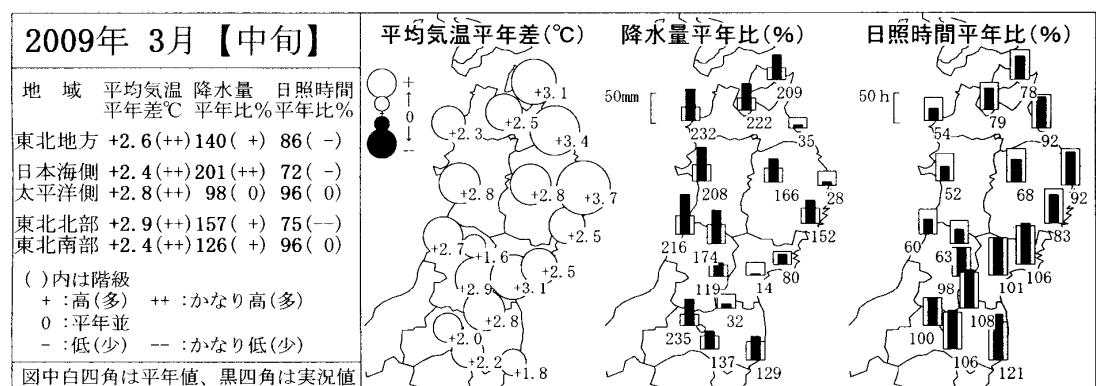
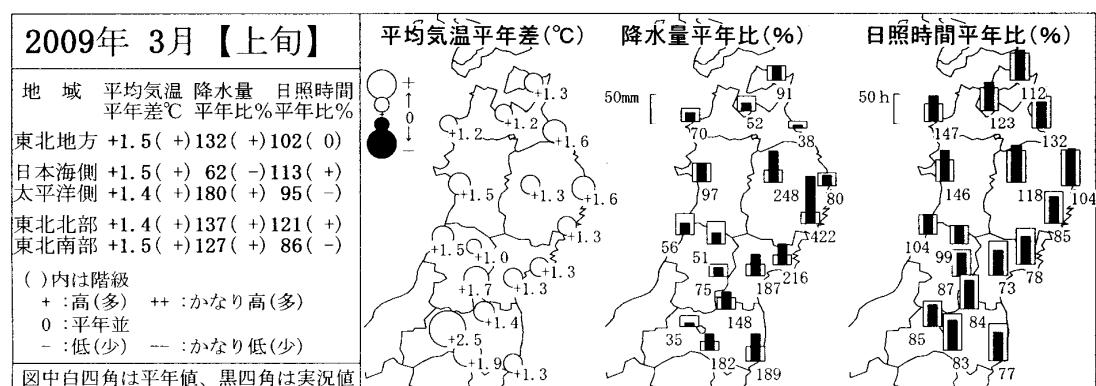
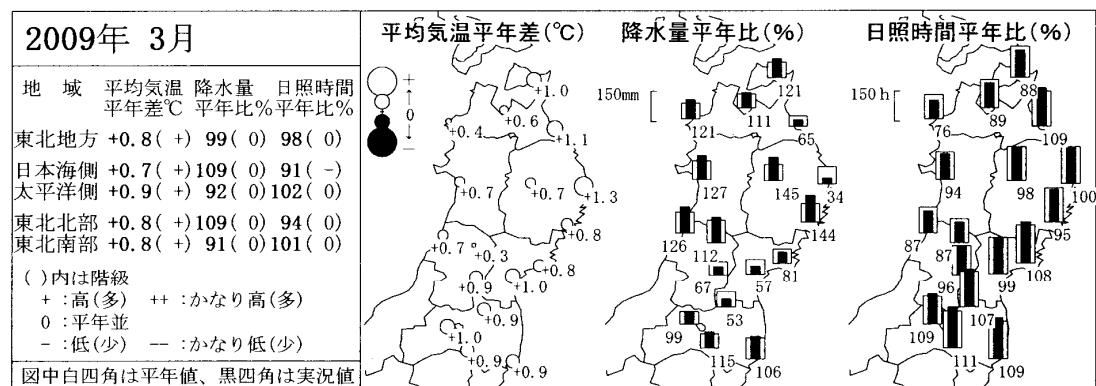
平均気温は東北日本海側でかなり低く、東北太平洋側で低い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。

(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2009年3月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2009年3月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 〔°C〕	階級 〔+〕	降水量(平年比) 〔mm〕	階級 〔+〕	降水日数 〔≥1mm〕	日照時間(平年比) 〔h〕	階級 〔+〕	降雪深さ(平年値) 〔cm〕	階級 〔+〕	最深積雪(平年値) 〔cm〕	階級 〔+〕
青 森	2.6 (+0.6)	+	77.0 (111)	○	15	124.8 (89)	-	66 (97)	-	32 (84)	-
深 浦	3.0 (+0.4)	+	94.5 (121)	+	13	91.7 (76)	-	11 (53)	-*	3 (27)	-*
む つ	2.4 (+1.0)	+	93.5 (121)	+	16	136.1 (88)	-	27 (95)	-*	10 (52)	-*
八 戸	3.4 (+1.1)	+	33.5 (65)	-	11	189.8 (109)	+	9 (56)	-*	3 (17)	-*
秋 田	3.9 (+0.7)	+	118.5 (127)	+	12	127.7 (94)	○	14 (51)	-*	3 (20)	-*
盛 岡	2.5 (+0.7)	+	116.5 (145)	+	11	163.7 (98)	○	16 (60)	-	9 (20)	-
大 船 渡	4.3 (+0.8)	+	132.0 (144)	+	8	159.8 (95)	○	3 (13)	-	2 (6)	-
宮 古	4.3 (+1.3)	+*	29.0 (34)	-	4	182.9 (100)	○	1 (47)	-*	1 (18)	-*
仙 台	5.5 (+1.0)	+	41.5 (57)	-	6	180.1 (99)	○	2 (15)	-	2 (7)	-
石 卷	4.5 (+0.8)	+	57.0 (81)	○	9	204.6 (108)	+	4 (11)	-	4 (9)	○
山 形	4.0 (+0.9)	+	44.5 (67)	-	11	141.3 (96)	○	34 (71)	-	13 (27)	-
新 庄	2.3 (+0.3)	+	125.5 (112)	+	18	101.4 (87)	-	84 (134)	-	61 (98)	-
酒 田	4.9 (+0.7)	+	130.5 (126)	+	17	109.8 (87)	-	12 (43)	-	5 (14)	-
福 島	5.8 (+0.9)	+	41.0 (53)	-	8	191.4 (107)	○	10 (34)	-	6 (10)	○
若 松	4.0 (+1.0)	+	63.5 (99)	○	15	152.9 (109)	+	39 (74)	-	11 (28)	-
白 河	4.5 (+0.9)	+	81.5 (115)	○	6	204.3 (111)	+	7 (32)	-*	3 (10)	-
小 名 浜	7.1 (+0.9)	+	112.5 (106)	○	9	203.8 (109)	+	()		()	

(注) 1. 年平均値は1971～2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合

で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1971～2000年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」

に*を付加した。この場合には

かなり高い(多い) カなり低い(少ない)

と表現できる。

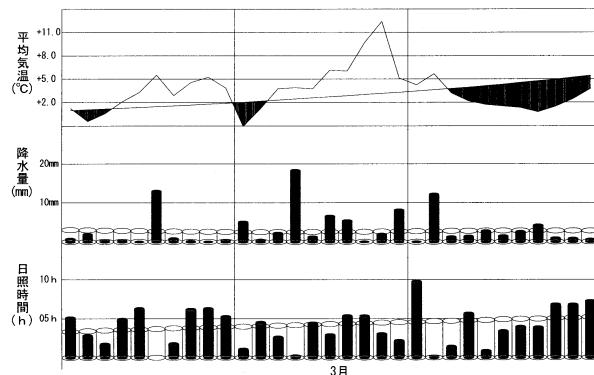
また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に〔〕や〕がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが〕付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

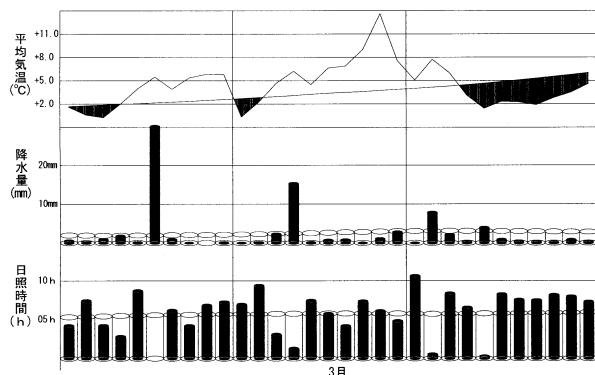
なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

4. 小名浜測候所が平成20年10月1日に特別地域気象観測所へ移行したことに伴い、小名浜の降雪および積雪の観測は終了した。

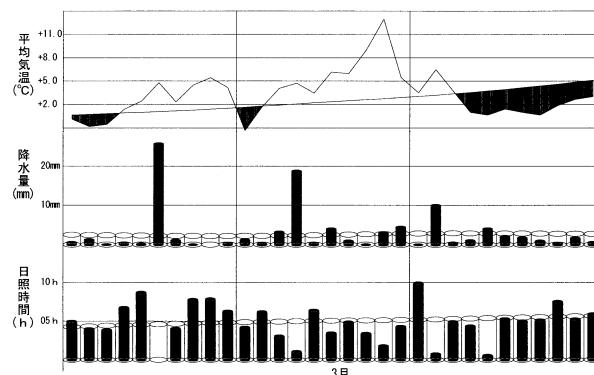
(5) 2009年3月の日別経過図



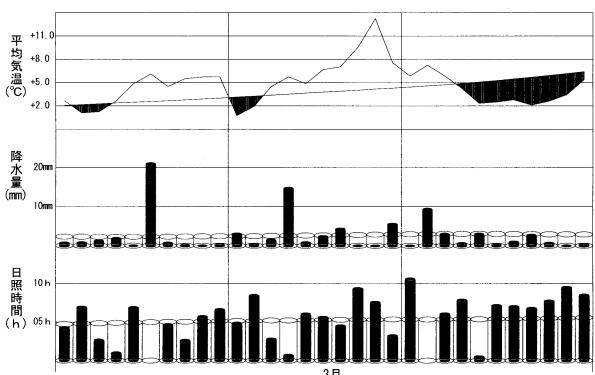
東北日本海側の日別経過図



東北太平洋側の日別経過図



東北北部の日別経過図



東北南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2009年3月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新
3位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新
3位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新
3位以内はなし

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新
3位以内はなし

月最深積雪大きい方からの順位更新
3位以内はなし

3月の日最高気温の高い方からの順位更新(3位まで)

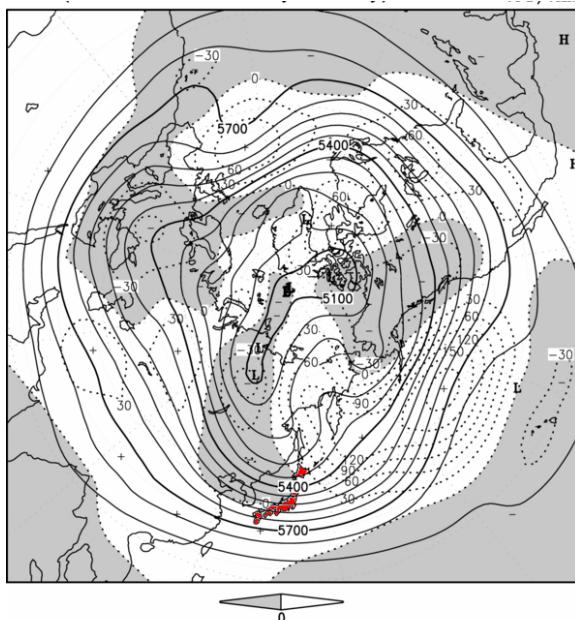
順位	地点名	気温 ℃ (起日)	これまでの最高 ℃ (年月日)	開始年
1	大船渡	22.7 (3/19)	21.1 (1969/3/27)	1964
	若松	22.8 (3/19)	21.3 (1954/3/27)	1954
	仙台	24.2 (3/19)	23.8 (1954/3/27)	1927
	福島	25.1 (3/19)	24.5 (1954/3/27)	1890
2	白河	22.4 (3/19)	23.4 (1998/3/30)	1940
3	酒田	20.9 (3/18)	22.6 (2004/3/17)	1937
	山形	22.2=(3/19)	23.7 (1891/3/31)	1890

(注) 平年値とは1971～2000年の30年間の値を平均したものである。

(7) 2009年3月の循環場の特徴

中央シベリアから中国東北区は負偏差、アラスカの南は強い正偏差で、冬型の気圧配置が平年より弱かったことに対応している。また、ユーラシア大陸から日本の南をとおり太平洋にかけての北緯30度帯は正偏差で、日本付近は平均的には寒気の影響を受けにくい大気の流れとなったことを示している。

一方、中国東北区の負偏差域が日本海まで南下しており、一時的に日本付近に寒気が南下したことに対応している。



2009年3月の平均500hPa高度
実線は等高度線：60m毎、点線は偏差：30m毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）